

## PRAEVIDENTIA DAILY (10月16日)

## 昨日までの世界：日米で「台風」が接近

昨日は、米議会における財政協議に関する期待と不安が交錯する中で、どちらかという米国内で悪い材料が相次いで流れたにもかかわらず、各通貨の動きはまちまちなものとなった。ドル/円相場は、98円台半ばを挟んだみ合いの展開がNY時間まで継続、NY連銀製造業景況指数の予想比大幅下振れ（実績1.52、市場予想は7.0）が発表されてもあまりドルは下落しなかったが、その後NY時間に米下院共和党の独自案が出たことを受けてまとまりつつあった米上院での交渉が一旦停止されたことが伝わると、ドル/円は再度98円台前半へ軟化、更にNY時間引けにかけて有力格付け機関Fitchが米国をネガティブウォッチに指定したことからドルが続落、一時98円丁度へ下落した。

この間、豪ドルは週明けからの上昇傾向が継続、対米ドルで一時0.9548ドルへ続伸していたが、NY時間には米株安を受けて小反落、とはいえ堅調を維持している。RBA議事要旨の内容はサプライズはなく、引き続き利下げの可能性を残すと同時に目先の利下げの必要性も示されておらず、発表後ほどなくして豪ドルは上昇に向かった。ユーロ/ドルやポンド/ドルは、欧州時間入りにかけて特段材料はなかったもののドル買いの動きの中で一時下落したが、その後は米議会での交渉難航やFitchによる米国のネガティブウォッチ指定を受けたドル売りから持ち直し、ポンド/ドルは前日引け値の水準を回復している。

米財政協議を巡っては、民主党が多数を占める上院で、1月15日まで政府機関閉鎖を解除、2月7日まで債務上限を引き上げる案でまとまりつつあるようにみえたが、共和党主導の下院が独自案を作成、医療改革法案（オバマケア）関連の医療機器課税の2年先送りを含む点などが問題となったようだ。その後、下院では修正案が作成されている模様で医療機器課税の2年先送りは削除されたようだが、明日に実質的期限を迎える中で不透明感は継続している。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.4	+0.01	+0.00	-0.01	+0.03	+0.04	+0.01	-0.7	+0.3	-1.2	-1.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西季の対独格差
ユーロ/ドル	-0.3	+0.02	+0.02	+0.00	+0.01	+0.06	+0.04	+0.9	-0.7	-1.3	-0.04
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.4	+0.05	+0.06	+0.00	+0.04	+0.08	+0.04	-0.3	-0.7	-0.2	-0.4
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.3	+0.01	+0.01	+0.00	-0.03	+0.01	+0.04	-0.3	-0.7	-0.2	-0.4
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.1	+0.05	+0.05	+0.00	+0.02	+0.06	+0.04	+0.6	-0.7		

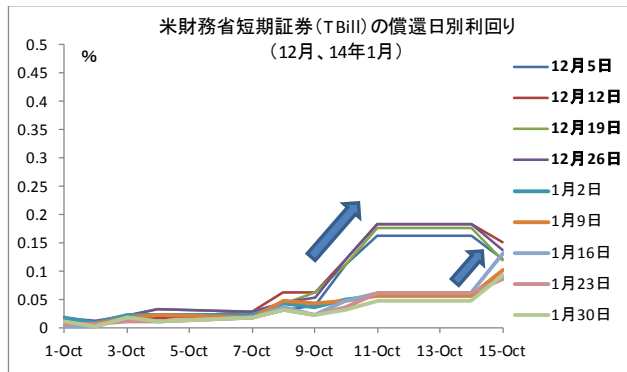
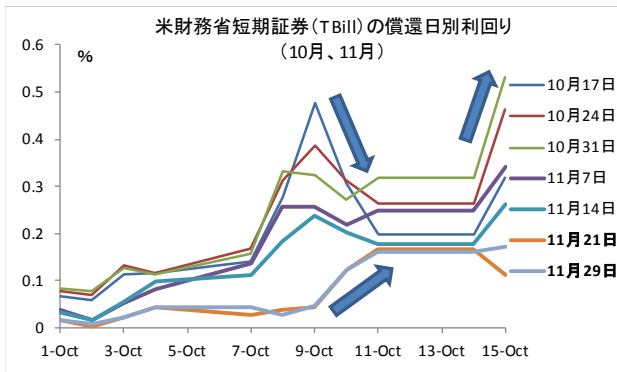
(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

## きょうの高慢な偏見：米議会がFedのタカ派をハト派化

本日の相場材料は、①Fisherダラス連銀総裁発言（8：15、タカ派、投票権なし）、②英8月失業率（17：30、前月、市場予想ともに7.7%）、③Dale・BoE金融政策委員発言（18：00、ハト派、講演テキストの公表）④米10月NAHB住宅市場指数（23：00、前月58、市場予想57）、⑤Mersch・ECB理事発言（2：00、中立）、⑥米地区連銀経済報告（3：00）、⑦Draghi・ECB総裁発言（3：00）、⑧Georgeカンザスシティ連銀総裁発言（17日朝7：30、タカ派、投票権あり）、などがある。

明日にかけては、米議会での一挙手一投足への市場の感応度が更に高まるとみられるが、今日中の決着は想定し難く、今日についてはドル/円は97円台も視野に入れつつ、下押しバイアスのもとで上下に振れやすい展開となろう。昨日も掲載した償還日別の米短期債証券利回りは、10月中償還分の利回りが昨日再上昇しているほか、来年1月中償還分が上昇し始めており、やはり期限が迫るなかでデフォルトに備えた市場の動きは再び強まっている（下図参照）。その他材料の重要度は相対的に低下しているが、Fedのタカ派メンバーの発言のハト派化の可能性に引き続き注目したい。昨日はタカ派で知られるFisherダラス連銀総裁（投票権なし）が、米国

の財政協議を巡る状況はあまりに不透明であるため今月の FOMC で金融政策の変更を主張するのは困難だと述べており、同じくタカ派で知られ量的緩和縮小を主張を示してきた George カンザスシティ連銀総裁（投票権あり）がハト派化するかが注目され、その場合はドル/円下押し要因となる。



#### ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。